



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2020年 No.4

(通巻66号)

10月18日発行

コロナ禍の影響で秋もほぼすべてのイベントが中止となり、皆様とお目にかかる機会もなくなっていますが、いかがお過ごしでしょうか。

寒さと共に第3波の訪れが警告されています。

お互いに注意を怠ることなく、厳しい状況を乗り越えていきたいと思います。

セネガルの状況

8月に、アメリカ合衆国の外交専門誌「フォーリン・ポリシー」が、各国の新型コロナウイルス対策を調査し、十分な回答のあった36か国の成功度ランキングを発表しました。その中で、セネガルは、ニュージーランドに次いで2番目に成功したという評価を受けました。具体的には、安定したマスクの供給、マスク着用の徹底、低廉な検査法の普及、遅くとも24時間以内に結果の判明する検査体制、ホテルなど公共施設への検査ボード導入などが紹介されていました。衛生環境や医療体制が未だ完璧ではないセネガルが、先進国を抜いて（日本は20位、アメリカ合衆国は31位）、2位になったというのは、快挙と言えると思います。

3月23日から始まったロックダウンも、6月30日に解除されました。現在、国内の移動は自由になっています。各種のイベントも徐々に再開され、イスラムの最大宗派、ムーリッドの祭りであるマガル（聖地トゥーバへの巡礼祭）も、10月5日～6日に開催されました。

セネガルに於ける、現在まで（2020年10月16日現在）の新型コロナウイルス感染者数は15,348人、回復者数は13,637人、死亡者数は316人です。

新型コロナウイルスとの戦いは続いています。現在、より大変なのが洪水です。学校では、通常の雨でも、藁でできた教室はもちろん、コンクリートの教室でもしばしば雨漏りが見られますので、最近のように予想をはるかに超える大雨が続くとほとんどの教室が使えなくなります。幸い、バオバブの会の支援先の学校ではそこまでの被害は出ていませんが、油断はできません。

各過程修了試験、上級学校進学試験、バカロレア（大学入学資格取得試験）も終わりました。現在は、11月から開始される新学年度（教師は11月5日、生徒は11月12日から）の準備をしています。

嬉しいニュース

サルム・ジャネ中学校の校長先生から、7月に行われた高等学校進学試験の結果についてのご報告をいただきました。それによりますと、51名の受験者中、最初の試験での合格者が18名、ぎりぎり合格点に達していない科目について行われた2回目の試験での合格者が24名、合わせて42名で、80%を超える合格率となりました。これも、長年にわたるバオバブの会からの支援のおかげということで、先生も生徒の皆さんも大変に感謝されています。

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

現在、世界中の国々が、それぞれの方法で新型コロナウイルスと戦っています。

セネガルは、先ごろ、この危機への対策がニュージーランドに次いで二番目に成功している、という評価を受けました。では、実際に、どのような方法で対処し、犠牲者数を最小限にとどめているのでしょうか。

第一には、政府が、陸海空の国境封鎖、人の移動と接触や集会の制限または禁止といった政策を直ちに打ち出したことが良かったのだと思います。コンゴ共和国のバルバの人々が、「**火事は遠くにあるうちに消そうとしなければならぬ**」と言う通りです。

次の要因は、医療関係者や公共の保健担当部署に於いて、サーズ、エイズ、エボラ出血熱、マラリアといった過去の経験に基づく感染症対策システムが既に構築されていたことです。この点では、セネガルだけではなく、他のアフリカの国々も同様だと思います。アフリカの国々は、常に、いわゆる「先進国」からたくさんの支援を受けていますが、今回に限ってその必要はありません。コンゴ共和国のファンの人々が「**年寄りのゴリラには道を教えない**」と言います。森の中で長い間暮らしているゴリラは、森のすみずみまで熟知しているので、他のものから道を教えてもらう必要はない、ということです。

さらに、無視できない要因として、人々の連帯があります。

セネガルでは、この問題が始まったとたん、連帯と助け合いの気運が高まりました。社会のあらゆる分野で、宗教指導者、アーティスト、各種の事業に携わる人々から一般の人々までが行動を起こし、マスク、消毒薬など感染防止の資材をそろえるためにお金を出し合ったり、感染防止を喚起し合う動きがありました。まさに、ピグミーの人々のことわざ、「**蟻を一匹踏みつぶすと、他の蟻がみんなでお前を噛みにやってくる**」の通りでした。

そして、実は、もうひとつ重要な要因があると思います。それは、国民の大多数がイスラム教徒であるセネガル^{注1}ならではの「イスラムの力」です。人々は、このイスラムの信仰という武器を手し、テレビ、ラジオ、新聞といったメディア、またSNSを通して戦い、今も戦い続けているのです。

今まで様々な機会にセネガルとその文化に触れて、セネガルに対して近しい感情を持ってくださっている皆様でも、この独特の宗教文化についてはあまりご存じないと思いますので、ご説明しましょう。

イスラム教徒は、すべてのものを「神」に基づいてとらえます。

イスラム教徒にとって、すべてのものは神の仕業（しわざ）であり、神が整えたものです。ですから、神がおこなうことすべてに、たとえ私たちには理解できなくても、正当な理由があります。一方、神が許さないことは絶対に起こりません。

これを固く信じることで、良いことがあったときには神への感謝の気持ちが溢れ、望まないものがやってきたときには勇気と忍耐の心が沸き起こるのです。

神に感謝するときと神の支えと問題への解決を嘆願するとき、二つの場合それぞれに、祈りの言葉と方法が決められています。

そのため、この感染が爆発した一番大変な時期に、コーランとハディース^{注2}の専門家やイスラムの歴史家がテレビやラジオに招かれて、預言者ムハンマドの時代に於ける伝染病や健康の危機の歴史を語り、人びとに助言を与え、祈りの言葉と方法を教えたのでした。テレビやラジオに加えて、SNSの中でも、宗教界の重要な人々や主要な宗派の創始者の言葉をひいて、「このようなときには、この祈りを、一日に何回、このように唱えるように」といったメッセージが溢れていました。

イスラムという武器が、新型コロナウイルスに対して本当に有効だったのかどうかはわかりませんが、少なくとも精神的な安定に役だったことは確かです。いずれにしろ、大半のセネガル人は、どのような状況に於いても祈ることをせずにはいられないのです。

また、セネガルのイスラム教徒は、科学と神秘的なことがらを自然に結び付けていることを強調しておきたいと思います。彼らにとって、科学と宗教の間には何の矛盾もありません。彼らによると、科学的探究は、大海原に置かれた海底探索器のようなものです。どんなに探索の技術が進んでも、広大な海の底の真の姿を完全に明らかにすることはできません。私たちが掴んだ知識は、この世界をより深く知っていこうとする勇気と努力への恩賞として、神が私たちにほんの少しだけ明らかにしてくれたものだ、と考えています。

科学と宗教が矛盾しないということは、信仰と一般の社会常識との間にも矛盾はないということです。先述の宗教関係者が登場する番組の冒頭と最後に、必ず、政府や公的な機関がうちだした規則を遵守することが、ムハンマドの言葉を通して強調されるのはこのためです。

また、セネガルでは、「ヤラ、ヤラ、トルビ！ (Yalla Yalla, tolbi)」という言葉がよく耳にします。「**まずはお前の畑を耕せ！ 良い収穫のために祈りながら**」という意味です。ですから、人びとの中にも、祈りを根本とした上で、医療関係者や政府によってたてられた方針を遵守していこう、という姿勢が自然に生まれるのです。

繰り返しになりますが、イスラム教徒はすべてを「神」に帰していきます。

私たちの義務は、私たちの生活をより良いものにするための努力を惜しまないことです。努力の結果、成功するか失敗するかは、私たちの責任ではなく、神のものだと考えます。ですから、成功したときは、自らを過大評価せず、謙虚になって神に感謝しなければなりません。失敗したときは、より強く祈ります。なぜなら、失敗にも正しい理由があるからです。神を信じて一層の努力を続けるのが、イスラム教徒の正しい生き方だとされているのです。

注1 セネガルの人口の95%はイスラム教徒、残りの5%はキリスト教徒だと言われています。90年代にピュー・リサーチ・センター（アメリカ合衆国のワシントンD.C.を拠点とするシンクタンク。アメリカや世界に於ける人々の問題意識や意見、傾向に関する情報を調査研究）が、人々の生活への宗教の重要性についての研究をおこないました。それによると、セネガルは、「世界で最も宗教的な国」ということでした。

注2 ハディースとは、預言者ムハンマドの同志や彼の身近にいた人が書き残したもので、ムハンマドの言葉と行動を伝えています。ハディースの整理と研究は、イスラム学の中で専門家によって行われ、正当性が認められています。

お知らせ

バオバブの会の事務所住所として登録されている、会長のディウフさんの住所が、10月19日より表示変更となります。新しい住所表示は下記の通りです。

〒240-0054 横浜市保土ヶ谷区西谷1丁目8-7

バ オ バ ブ の 会 代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

〒240-0054 横浜市保土ヶ谷区西谷1丁目8-7 TEL&FAX 045 - 373 - 0059

寄付振込先 : ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215

三菱UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no. 1523673

★HP : <http://the-baobab.org>

★Mail : info.the.baobab.assoc@gmail.com HP内の「お問い合わせはこちら」からご連絡いただけます。

★FBページ名 : バオバブの会The Baobab Association URL :

<http://www.facebook.com/the.baobab.association>